

原発対応「スポークスマン」愛の日々

「美人職員」を

経産省

「西山審議官」

役人の恥さらし……



「弄ぶ」

特集

17日の会見と東電本店(上)

6月17日。この日、東京電力は、本店の統合対策室で福島第一原発事故の収束に向けた新工程表を発表した。この場に経産省原子力安全・保安院のスポークスマンとして西山氏も同席。会見は長時間にわたったがいつものように記者の質問に淡々と答えていた。

白い麻のジャケットを着た西山氏が虎ノ門にある「ホテルオークラ」のメインロビーに現れたのは、その日の23時過ぎのことだ。ソファアに深く腰掛けると、間もなく20代後半と思しき清楚な感じの女性が現れた。そして2人はホテル内の「オーキッドバー」へ。西山氏も女性もタバコは吸わないもののボーイから喫煙席へ案内され、大きな柱の陰にある小さなテーブル席に向かい合わせて座ったのだ。数名の客の一人が西山氏に気付き、その姿を「おっ」と目で追うなど、彼はすっかり有名人である。女性にはアマレットなどを使ったカクテル、西山氏は

テキーラや赤ワインを注文。談笑する2人の姿は、少し歳の離れたカップルにも見える。ただ、西山氏は連日の激務で疲労が溜まっていたのか、女性がトイレへ行くとコクリ、コクリと船を漕ぎ始めたのだ。結局、西山氏が会計を済ませ、店を出たのは午前0時半過ぎ。店の閉店時間を30分も回っていた。

ところが、2人は直ぐに車を拾わず、正面玄関を出ると米国大使公邸の前を通り、細い坂道をてくてくと歩き始めた。すると、西山氏はごく自然に女性の手を握り、今度は腰に手を回したのである。この間、終始千鳥足だ。そして、坂道を下る途中、西山氏は、右手にあったマシンのオープンスペース

震災後、世間に一番顔が売れた役人といえ、経済産業省原子力安全・保安院でスポークスマンを務める西山英彦審議官(54)である。真面目な記者対応に定評があったが、メディアには見せない一面を持っていた。省内の美人職員との永き不倫劇を今も続けているのだ。

スに嫌がる女性をぐいと引っ張りこみ、その唇を二度、三度と奪ったのだ。時間にしてほんの数分の出来事だ。が、女性は西山氏がまさか外でこんな破廉恥な行動に出るとは予想していなかったのか、直ぐにホテルオークラへ戻ると、逃げるようにタクシーに乗り込んだ。

目と鼻の先が米国大使館というこの界限は、警察官が24時間体制で警備にあたっている。いくら深夜で人影もないとはいえ、いつ警官に見つかってもおかしくない。記者会見での、常

に冷静沈着な西山氏からは全く想像のつかない大胆で情熱的な行動であった。原発の放射能汚染水処理にトラブルが頻発し、予断を許さぬ状況下で、西山氏が深夜に密会する妙齢の女性。しかも、彼女とは別れ際にキス……。2人は一体、どんな関係なのか。

2人を知る経産省関係者が打ち明ける。

「実は、彼女は経産省に勤める職員です。以前から西山さんの寵愛を受けており、1年前から特別な関係にあります。平たく言えば愛人

「恩返し」

2人の交際については後述するとして、まず西山氏とはどんな人物なのか。

1980年、東大法学部を卒業後、旧通産省に入省。その後、米ハーバード大学大学院を修了。英語も堪能だ。

原発事故後、原子力安全・保安院のスポークスマン

ですね。これまでは、知人を知る関係でしたが、最近、省内で2人の仲が噂になりつつあります」

仮に女性の名を中村洋子さんとしよう。和風美人。現在、独身である。

「彼女はよく気がつくタイプで、省内では仕事もできると評判です。そのあたりが西山さんの御めがねに当たったのかもしれない。ただ、西山さんはこれまで女性問題とは無縁の人と思っていたので、最初聞いた時は本当にびっくりしました」(同)

は別の担当審議官が務めていたが、官邸が発言にケチを付け、2人続けて更迭され急速、起用されたピンチヒッターである。経産省の担当記者が言う。

「現在、西山さんは通商政策局担当の審議官ですが、原子力安全・保安院の企画調整課長や資源エネルギー

灵芝ご愛飲の皆様へ、おトクなニュースです!

日本をはじめ、アメリカ・中国の州、国立大学でも
研究用に採用された

高品質 飛驒灵芝

よいものだからこそ長く愛飲してほしい。そう考えたから、この価格が実現しました。二十年以上にわたる科学的な研究、栽培実績の成果を結集したのが「飛驒灵芝」です。その品質は国内・海外で高く評価され、研究用灵芝として採用されています。*「飛驒灵芝」は商標です。

1kg (197円) 30,000円
500g 17,000円 (各税込/送料別)

だから長期愛飲者にごそ、自信を持ってお勧めします。

ご注文 <http://www.dai-yakusan.co.jp/>
お問合せ 飛驒灵芝 第一薬産 検索

☎0120-32-0963

*愛・きざみ・粉末等ご要望に応じます。
*開封前、箱後7日間は返品可(返送料申込者負担)

第一薬産株式会社 〒506-0003 岐阜県高山市本母町59



庁の電力・ガス事業部長を務めた経歴から、白羽の矢が立ったのでしよう。会見中のキツイ質問にも、常に冷静で的確な受け答えができる」と省内の評価も高い」

「西山氏の家族は、妻と一男一女。官舎住まいである。ちなみに、長女は東京電力にお勤めだが、一部にはこんな声もある。」

「東電の清水正孝社長は昨年まで足繁く西山さんの部屋に通っていたし、東電とベツタリだったのは明らかです。しかも、西山さんは電力会社を指導、監督する立場の電力・ガス事業部長も務めており、娘の東電入社が表面化した際には省内からも批判の声が上がりました。記者会見の時を除けば、東電に同情的な発言が多く、被災者を思いやる言葉はあまり聞いたことがありません」(経産省幹部)

た」(同) 西山さんは、妻と一男一女。官舎住まいである。ちなみに、長女は東京電力にお勤めだが、一部にはこんな声もある。 「東電の清水正孝社長は昨年まで足繁く西山さんの部屋に通っていたし、東電とベツタリだったのは明らかです。しかも、西山さんは電力会社を指導、監督する立場の電力・ガス事業部長も務めており、娘の東電入社が表面化した際には省内からも批判の声が上がりました。記者会見の時を除けば、東電に同情的な発言が多く、被災者を思いやる言葉はあまり聞いたことがありません」(経産省幹部) これまで女性問題のトラブルはなかったが、 「彼女と西山さんが男女の仲になったのは、1年くらい前のことです」 と述懐するのは、先の経産省関係者だ。 「今から1年以上前ですが、彼女は職場の人間関係で悩

カラオケのVIPルームで

翌12月のデート回数は10回程。具体的には1日、3日、……27日、28日。 ある事情通はこう証言する。 「2人で旅行に行ったり、遠出することはありません。デートは、もっぱら霞が関周辺でした。ね。神谷町のピールバーや、よく見かけたのが『モダンタイムス赤坂

んでいました。その時、相談に乗ってあげたのが西山さんです。人格者で仕事もできると評判の西山さん。中村さんは尊敬していた。早い話、相談に乗ってもらっているうちにデキちゃったんです」 ただ、中村さんにとって20も年の離れた西山氏は、最初から恋愛対象だったわけではないようで、 「最初、2人きりで食事に行った時に、いきなり手を握ってきたとか。ま、親身に話を聞いてもらった恩返

しのような感じで、西山さんから求められるがままに肉体関係を結んでしまったのでしよう」(同) デートの回数が多くなつたのは、昨春秋以降である。「特に頻繁に会うようになったのは、11月くらいからです。例えば、西山さんは昨年11月7日から14日まで横浜で開かれたAPECの高級実務者会合議長を務め、多忙を極めていました。それでもこの月は、6回も夕食を共にしたそうです」(同) 「ある時、2人が別々にモダンタイムスに行くと、西山さんが何も告げていないのに店員さんから『お連れ様がお待ちです』と」

行った後、近くにある大手カラオケチェーン店に行くことが多かったそうです」と、その事情通が続ける。

「決って使っていたのは8階のVIPルーム。驚くべきことに、2人はカラオケ屋に行っているのに、一曲も歌ったことがないそうです。で、何しに行っていたかといえ、なんとカラオケルームがラブホテル代わりだったというのです」

2人が行っていたカラオケ店の料金表を覗くと、1

「しようがないですから」

ここまで来ると、ただの「ケチ男」と言われてしまいうる。

「西山さんは、古いカツラを使っているの、激しい動きをしようと、カツラがズレてしまいか。だから、ゴルフなんかはやらない。笑っちゃういけないけど、セックスする際、上の肌着を脱ぐと、カツラが引つ掛か

人30分390円、週末は480円なんて数字が並んでいる。VIPルームは追加で150円払えばよい。 「西山さんは、審議官ですから年収は1500万、1600万円程度。それに家賃が格安の官舎住まいですよ。むろん、飲み代や帰りのタクシー代は、全て西山さんが持つのでしようが……」(同) シティホテルではなくカラオケ店で済まされるのは、彼女もずいぶん安くみられたものである。 っでズレてしまふ。そのため、パンツは脱いでも上は着たまま、しちゃうそうです」(同) 問題は2人の関係が原発事故後も、人知れず続いていたことである。むろんカラオケボックスに行くことはなかったが……。 そして、シーンは記事の冒頭へと戻る。

前出の経産省関係者が説明する。 「彼とすれば、6月17日は久々に中村さんと会えて、つい嬉しくなり、酔った勢いでキスしてしまったのでしよう。中村さんも求められると断れないタイプです。彼女は所詮いいように弄ばれているだけかもしれせん」

以上が本誌が掴んだ2人の交際に関する情報である。 さて、当事者は何と答えるか。まずは西山氏である。 20日夜、御本人を自宅エレベーター前で問いただした。ホロ酔い加減で帰宅したようだが、本誌記者の質問に普段は浅黒い顔が蒼く変わり取りは、次の通りだ。 「最初、中村さんの身の上相談にのつたのか? 西山 そのことは個人的な話だから言わない。肉体関係はない。 —中村さんと赤坂のカラオケ店には行ったか? 西山 そんなにたくさんは

行っていない。 —VIPルームを使っていた? 西山 知らない。いや、カラオケには間違いなく行ってない。 —6月17日、ホテルオークラのバーで中村さんと一緒でしたよね。 西山 それは飲んだ。見てる人がいるしね。 —その後、中村さんとキスをした? 西山 それは覚えてないね。 —震災前、モダンタイムスにもよく行ってた? 西山 えーっと、それはちょっとノーコメントだな。 —書かれると都合が悪いのか? 西山 都合悪くない。しようがないですから。どう書いてもらってもいいですよ。いつもの冷静さを失い、当初、中村さんとカラオケ店に行ったことを認めたものの、なぜか直ぐに前言葉を撤回。最後は「ノーコメント」を連発し、開き直るのであった。 一方の中村さんは、「ノーコメント」と言うのみ。 日本を将来を左右する福島原発事故。その要に位置するスポーツスマンを彼に任せておいて良いものかどうか。